

國學院大學学術情報リポジトリ

スタッフ紹介

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.57529/0002000584 |

スタッフ紹介

※ 氏名、現職、専門分野、担当研究事業、および2019年度の研究業績について紹介します。今年度新任のスタッフに関しては、研究紹介および2018年度以前の研究についても掲載します。なお、掲載順は担当研究事業を基に、現職・五十音順に従うものとします。

平藤喜久子 所長・教授 神話学・宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[単行本]

- ・『世界の神様 解剖図鑑』エクスナレッジ、2020年3月、全167頁。
- ・『いきもので読む、日本の神話』東洋館出版、2019年7月、全160頁。

[論文]

- ・「神話学と大嘗祭」『神道宗教』第254、255号、神道宗教学会、2019年7月319-348頁。

[口頭発表]

- ・「植民地主義と日本神話」国際シンポジウム「マヤ文明」と「日本神話」—近代知が紡ぐ地の「記憶」、科学研究費補助金（基盤研究C）「近代以降の「神話」概念の包括的再検討とその社会的意義の解明」（課題番号：18K00506）主催／神戸大学国際文化学研究推進センター共催、於：白鹿記念酒造博物館 記念館会議室、2019年11月9日。
- ・「神の姿に見る古代と現代」ワークショップ「近現代日本の宗教文化と「古代」、ハーバード大学ライシャワー日本研究所、國學院大學研究開発推進機構古事記学センター、日本文化研究所共催、於：ハーバード大学ライシャワー日本研究所、2019年11月1日。
- ・（講演）「日向神話の動物たち」神話のふるさと県民大学—宮崎県立看護大学・宮崎県立図書館 主催リレー講座一、於：宮崎県福祉総合センター4階大研修室、2019年9月7日。
- ・“Young People’s view of death and life in modern Japan” 35TH BIENNIAL ISSR CONFERENCE, BARCELONA, 2019, International Society for the Sociology of Religion（国際宗教学会）, 於：バルセロナ現代文化センター、2019年7月9日。

[その他]

- ・監修『幸せ運ぶ! ニッポン神社めぐり (NHK趣味どきっ!)』NHK出版、全144頁、2019年11月。
- ・監修『縁切り神社でスッキリ! しあわせ結び』WAVE出版、全144頁、2019年6月。
- ・（テレビ出演）「幸せ運ぶ! ニッポン神社めぐり」NHK Eテレ、2019年12月～2020年1月。

黒崎浩行 教授 宗教社会学、現代社会と地域神社

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[単行本]

- ・『神道文化の現代的役割—地域再生・メディア・災害復興』弘文堂、2019年12月。

[口頭発表]

- ・「災害後の集落の変化と祭礼文化の包摂性」日本宗教学会第78回学術大会、於帝京科学大学、2019年9月15日。

藤澤紫 教授 日本美術史・浮世絵・江戸文化論・比較芸術学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[単行本]

- ・監修・執筆『浮世絵ガールズ・コレクション—江戸の美少女・明治のおきょん—』國學院大學博物館、2019年6月。

[論文]

- ・「浮世絵の日本美術」古田亮監修『教養の日本美術史』第12章、ミネルヴァ書房、2019年11月7日。

[口頭発表]

- ・(講演)「もっと！遊べる浮世絵！」「特別展 くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵展」記念講演会、於練馬区立美術館、2019年6月2日。
- ・(講演)「浮世絵とジャポニスム」東京女子大学比較文化研究所主催公開講演会、於東京女子大学講堂、2019年6月13日。
- ・(講演)「浮世絵と江戸の出版界」國學院大學栃木短期大学日本文化学科講演会、於國學院大學栃木短期大学40周年記念館、2019年7月3日。
- ・(講演)「女性美と粹 —江戸・明治の美人に学ぶ—」國學院大學博物館企画展「浮世絵ガールズ・コレクション」、於國學院大學渋谷キャンパス常磐松ホール、2019年7月27日。

[その他]

- ・(展覧会監修)「特別展 くもんの子ども浮世絵コレクション 遊べる浮世絵展」於練馬区立美術館
- ・(テレビ監修)「浮世絵EDO LIFE」NHK BS4K、2019年4月～2020年3月(2019年度分)
- ・(連載)「浮世絵と遊ぼう！(13)～(24)」時事通信(河北新報、八重山毎日新聞、長野日報、陸奥新報、苫小牧民報)2019年4月～2020年3月(2019年度分)

遠藤潤 教授 宗教学、日本宗教史(近世・近代)

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[論文]

- ・「平田篤胤『仙境異聞』の編成過程—〈かたり〉と書物のあいだ—」『國學院雑誌』第120巻7号、2019年7月、1-20頁。

[口頭発表]

- ・「平田国学における古代の神のリアリティー—近代に向かって—」国際ワークショップ「近現代日本の宗教文化と「古代」」(ハーバード大学ライシャワー日本研究所、國學院大學研究開発推進機構古事記学センター・日本文化研究所共催)、於ハーバード大学ライシャワー研究所、2019年11月1日。

松本久史 教授 近世・近代の国学・神道史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[論文]

- ・「昭和戦中期の国学研究—藤田徳太郎を例に一」國學院大學研究開発推進センター編 阪本是丸責任編集『近代の神道と社会』、2020年2月、643-666頁。
- ・「荷田春満の『古事記』解釈と「神祇道德説」」國學院大學研究開発推進機構 古事記学センター編『古事記学』第6号、2020年3月、213-227頁。

星野靖二 准教授 近代日本宗教史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・「『経世博議』 解題」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報』第12号、2019年9月、33-46頁。
- ・「中西牛郎——「新仏教」の唱導者」高満也・吉永進一・碧海寿広編『日本仏教と西洋世界』法蔵館、2020年3月、291-318頁。

[口頭発表]

- ・“Nakanishi Ushirō: His Biography and the History of Religions” in the panel “Reconsidering the Role of Biography in the Study of Modern Japanese Buddhism” organized by Orion KLAUTAU, at the 78th Annual Conference of the Japanese Association for Religious Studies (JARS), held at Teikyo University of Science, 2019.9.14.

エリック・シッケタンツ (SCHICKETANZ, Erik)

助教 近代日本の宗教、近代中国の宗教、宗教と政治

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

吉永博彰 助教 中世・近世の神道史、神社有職故実

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・「近世大嘗祭の次第と運営―「近世大嘗祭儀・行事一覧」の作成と整理・分析に寄せて―」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』12号、2019年9月、47-70頁。
- ・「近世大嘗祭に於ける荒見川祓の研究―儀式次第と作法・祓具の分析を手掛かりとして―」『國學院雑誌』第120巻11号、2019年11月、183-203頁。

[口頭発表]

- ・(ミュージアムトーク)「女性天皇の大嘗祭―後桜町天皇の事例―」、〔企画展〕「大嘗祭」、於國學院大學博物館、2019年11月9日。

[その他]

- ・(口絵解説)「御即位図」「御即位式之御図」『季刊 悠久』第157号、おうふう、2019年4月、89-91頁。
- ・「近世の祓の儀礼と用具」『祓の信仰と系譜』國學院大學研究開発推進機構学術資料センター(神道資料館部門)、2019年6月、14-15頁。
- ・(図録論考)「近世大嘗祭の次第―後桜町天皇の事例から―」『〔企画展〕大嘗祭』國學院大學博物館、2019年11月、82-83頁。
- ・(編集協力)「〔祭祀のルーツを追う旅へEP1〕千数百年続く「まつり」はどう生まれたのか―大嘗祭天皇みずから平安を願う意味―」『Discover Japan』Vol.98、2019年12月、134-135頁。
- ・(編集協力)「〔祭祀のルーツを追う旅へEP2〕古代の人々が「鏡」に感じた特別な意味―副葬品や三種の神器から知る神秘性―」『Discover Japan』Vol.99、2020年1月、114-115頁。
- ・(編集協力)「〔祭祀のルーツを追う旅へEP3〕日本各地に広まり、やがて消えた「埴輪」―その存在の歩みをたどる―」『Discover Japan』Vol.100、2020年2月、204-205頁。
- ・「近現代の神社と祭り」『四季の祭りと神道の歴史』國學院大學研究開発推進機構学術資料センター(神道資料館部門)、2020年2月、18-19頁。
- ・(編集協力)「〔祭祀のルーツを追う旅へEP4〕神聖視された「勾玉」の実態―人々がその貴重さに魅せられたわけ―」『Discover Japan』Vol.101、2020年3月、150-151頁。

武田幸也 助教 近代神道史・国学

担当研究事業「〔國學院大學 国学研究プラットフォーム〕の展開と国学史像の再構築」

[論文]

- ・「近代の大嘗祭論と天皇像」國學院大學研究開発推進センター編 阪本是丸責任編集『近代の神道と社会』、2020年2月、527-548頁。

[口頭発表]

- ・(講演)「近代の大嘗祭理解と天皇像―アメリカ派遣研究を踏まえて―」、於院友神職会総会、2019年10月24日。

キロス・イグナシオ 客員研究員 上代文学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【その他】

- ・(書評)「『古事記』の稲葉の白兔挿話における八十神の身分をめぐって」『劇場文化』静岡県舞台芸術センター、2019年6月 (<https://spac.or.jp/culture/?p=822#more-822>)
- ・(翻訳) Studies on the Kojiki (『古事記学』第4～6章英訳, in cooperation with Kate Wildman Nakai) 『古事記学』國學院大學二十一世紀研究教育計画委員会研究事業文部科学省市立大学研究ブランディング事業成果報告論集、第6号、2020年3月、245-308頁。

丹羽宣子 PD研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【口頭発表】

- ・「『〈僧侶らしさ〉と〈女性らしさ〉の宗教社会学』書評会&若手研究発表会」「仏教と近代」研究会、於國學院大學、2019年7月14日。

【その他】

- ・「天皇代替わりに伴う諸儀礼とそれをめぐる議論」『ラク便り』第83号、2019年8月、45-50頁。
- ・(コラム)「連載〈23〉色香美味 次世代のトップランナー紹介 研究から見えるのは、未来への道すじ 宗教社会学者 丹羽宣子さん」『教誌 正法』第159号、2019年9月、40-43頁。
- ・「大嘗祭」『ラク便り』第85号、2020年2月、39-43頁。

高田彩 PD研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の展開と国学史像の再構築」

【論文】

- ・「武州御嶽山の社会組織—女性の役割に注目して—」『宗教と社会』25号、2019年6月、81-95頁。
- ・「宿坊を支える人々—武州御嶽山と山麓地域に注目して—」『次世代人文社会研究』16号、2020年3月、211-231頁。

【口頭発表】

- ・「近現代における山岳聖地の生存戦略」日韓次世代学術フォーラム第16回国際学術大会、於ハンシン大学校(韓国)、2019年6月29日。
- ・「武州御嶽山と山麓住民—宿坊運営における女性従業員に注目して—」日本宗教学会第78回学術大会、於帝京科学大学、2019年9月14日。

河合一樹 PD研究員 日本思想史

担当研究事業「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の展開と国学史像の再構築」

【研究紹介】

博士論文では、本居宣長の思想と近世の「正名」を巡る議論との関わりについて思想史的研究を行った。近世においては日本と中国とを比較して、様々な事物・制度の名称をどのようにするべきかということが、「正名」という言葉とともに多くの儒者・国学者によって論じられたが、宣長について考える上でも重要である。具体的には、第一に宣長が儒学を否定しながら孔子のみを高く評価する理由を「正名」との関わりから考えた。第二には、宣長が『古事記伝』において構想する古代日本の「名」の在り方と近世の「正名」論との関係を考察した。その中でウヂカバネの問題を扱ったことをきっかけに、今後は近世における『姓氏録』受容の研究を行いたい。

【論文】

- ・「死者の名を呼ぶ:本居宣長における諱の問題」『倫理学年報』67号、2018年4月、277-291頁。
- ・「宝暦期の「正名」:留守希斎『称呼弁正』を手掛かりに」『求真』21号、2019年3月、17-29頁。
- ・「『古事記伝』と『姓氏録』:本居宣長における「ウチカバネ」の成立」『日本思想史学』51号、2019年10月、64-81頁。

[口頭発表]

- ・「孔子はよき人—本居宣長の孔子観とその周辺」第15回日韓次世代学術フォーラム、於静岡県立大学、2018年6月30日。
- ・「姓氏・天皇・政—本居宣長の描いた古の社会秩序」第77回日本宗教学会、於大谷大学、2018年9月8日。
- ・「本居宣長の孔子観と『古事記』序文解釈」日本思想史学会2018年度大会、於神戸大学、2018年10月14日。
- ・「『古事記伝』における神の注釈と名の注釈」第36鈴屋学会、於本居宣長記念館、2019年4月21日。

大場あや 研究補助員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[研究紹介]

地域社会における葬制が、近代化とりわけ戦後の社会変動のプロセスにおいてどのような変容を遂げてきたのか、葬儀の執行を支えた互助組織に着目し、検討している。これまでは主に山形県最上地方にてフィールドワークを行い、契約講と呼ばれる互助組織の変容を、地域特性や葬法の違い、社会組織・社会関係との関連において分析してきた。最近では、生活改善運動・新生活運動などの官製運動が各地域でどのように展開され、冠婚葬祭に影響を与えたのか、地元の新聞・雑誌等の文献資料を中心に調査を進めている。今後は、東アジア圏における比較を視野に入れ、生活の改善・儀礼の合理化を推進する政策・運動と葬送墓制の関係についてアプローチしていきたい。

[論文]

- ・「契約講研究の成果と課題—分野横断的な検討から—」『大正大学大学院研究論集』42号、2018年3月、116-94頁。
- ・「地域社会と葬儀の互助組織—農村と町場の契約講の比較から—」『宗教と社会』24号、2018年6月、49-63頁。
- ・「葬儀をめぐる新生活運動の現在—群馬県・栃木県を中心に—」『株式会社冠婚葬祭総合研究所論文集 平成30事業年度（葬祭編）』、2019年5月、43-50頁。

[口頭発表]

- ・「『宗教浮動人口』と骨仏—その先駆性と意義—」（テーマセッション「『現代人の信仰構造』の成果と課題」第3報告）「宗教と社会」学会第27回学術大会、於京都府立大学、2019年6月9日。
- ・「『生活改善』と葬儀の簡素化—戦後山形県における新生活運動の展開—」日韓次世代学術フォーラム第16回国際学術大会、於韓神大学校、2019年6月29日。
- ・「葬儀の簡素化と香典—群馬県・栃木県における「新生活」の定着—」日本宗教学会第78回学術大会、於帝京科学大学千住キャンパス、2019年9月15日。
- ・「新生活運動と『冠婚葬祭の改善』—山形県における展開—」第92回日本社会学会大会、於東京女子大学、2019年10月6日。

[その他]

- ・（研究動向）「世俗化論・合理的選択理論」寺田喜朗・塚田穂高・川又俊則・小島伸之編『近現代日本の宗教変動—実証的宗教社会学の視座から—』ハーベスト社、2016年6月、147-161頁。

小高絢子 研究補助員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[口頭発表]

- ・「観光政策における「仏教らしさ」の活用—柴又帝釈天とその周辺地域を事例として」観光光学学会第8回大会、於立命館アジア太平洋大学（APU）、2019年7月7日。

宮澤安紀（旧姓：内田） 研究補助員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【研究紹介】

私が取り組んでいる研究の目的は、現代社会における葬送文化の変容を対象に、それらと相関関係にある社会構造や死生観の変容を含めて分析することにある。近年では研究対象を日本からイギリスへと移し、近代化や世俗化がもたらす、異なる歴史・文化・社会制度を持つ地域において同時期に進行する葬送の変容の圧力と、それぞれの地域におけるその現れ方の違いに関心を持っている。現在の研究では特に、1990年代以降世界各国で環境に配慮した葬送が登場し定着した現象に着目し、伝統宗教の衰退や環境保護の倫理観の台頭を踏まえ、日英を事例にその背景と現状を比較の視点から分析している。

【論文】

- ・（内田安紀名義）「現代日本における葬送と自然—「自然に還る」というイメージをめぐる—」『宗教と社会』23号、2017年6月、15-29頁。
- ・（内田安紀名義）「イギリスにおける自然葬の出現と普及—その社会的要件から—」『宗教学論集』38輯、2019年3月、3-24頁。
- ・「現代イギリスにおける死生学の特徴とその動向—雑誌Mortalityの分析を中心に—」『現代宗教2020』、2020年1月、209-238頁。

【口頭発表】

- ・“Tree Burial in Contemporary Japan: What are the commonalities and differences from British natural burial?”, 14th International Conference on the Social Context of Death, Dying and Disposal, University of Bath, 2019.9.4-7.
- ・“Japanese tree burial and its social context: cemetery management issues in contemporary Japan”, New Research on Death and Dying Trends in Asia, University of Bath, 2019.11.27.

木村悠之介 研究補助員 近代日本宗教史・神道史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【研究紹介】

近代を生きた人々が、神道は「宗教」になりうるか／なるべきか、「言挙げ」すなわち言語表現・教義形成との関係において模索しつづけた過程を研究している。これまでは、明治中後期における教派神道や大学の周辺で、新仏教運動やユニテリアニズムを意識した「神道改革」の動きが起こり、当時は教派神道に局限されていた「神道」概念が、他領域にも拡張していったことなどを論じてきた。現在は、神道改革や神道青年運動など、神道学という学知の成立にもつながる知識人宗教的な動向を狭義の「近代神道」と概念規定したうえで、大正期以後の神道界において「学」なるものの位置づけがどのように変動していくのかを検討したいと考えている。

【論文】

- ・「明治後期における神道改革の潮流とその行方—教派神道と『日本主義』から「国家神道」へ—」『神道文化』第31号、2019年6月、47-81頁。

【口頭発表】

- ・「近代神道における革命・出版・青年—神風会から会通社へ—」第20回「仏教と近代」研究会、於國學院大學、2019年7月13日。

【その他】

- ・（研究ノート）「近代日本キリスト者の神道観に関する資料目録（1）」（齋藤公太と共著）『國學院大學

研究開発推進機構日本文化研究所年報』第11号、2018年9月、106-113頁。

- ・「附録」(入倉滉太・藤田大誠と共著) 山口輝臣編『戦後史のなかの「国家神道」』山川出版社、2018年11月、附録1-61頁。
- ・(資料紹介)「一八九六年における「国家神道」の用例―道生館『闇夜の灯』の神宮教批判とその反響を通して―」『神道宗教』第253号、2019年1月、77-104頁。

井上順孝 客員教授 宗教社会学、認知宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・「新興宗教から近代新宗教へ―新宗教イメージ形成の社会的背景と研究視点の変化」堀江宗正編『宗教と社会の戦後史』東京大学出版会、2019年4月、267-293頁。
- ・“Violence and How to Recognize Perceptual Bias: Reflections on Twenty Years of Research” *Japanese Journal of Religious Studies*, 46-1, 2019.5., pp.129-136.
- ・「現代における葬送儀礼の変容に関する認知宗教学的な分析の試み」『中央学術研究所紀要』48号、2019年11月、3-33頁。

[口頭発表]

- ・(講演)「グローバル時代に宗教文化はどうなる？」於川内高校、2019年4月16日。
- ・テーマセッション「宗教をめぐる調査・研究の倫理」(コメンテータ)、「宗教と社会」学会、2019年6月9日。
- ・「現代における葬儀の変容に関する認知宗教学的な分析の試み」日本宗教学会、於帝京科学大学、2019年9月15日。
- ・(講演)“Contemporary Religious Movements in East Asia,” 於西江大学校(韓国)、2019年11月4日。
- ・(講演)「宗教と食文化―イスラム教、ユダヤ教、ヒンドゥー教からグローバル化を学ぶ」アジア太平洋フォーラム、於赤坂エクセルホテル東急、2019年11月21日。
- ・(講演)「ボーダレス化する世界と日本の宗教文化」於名古屋学院大学、2019年12月1日。
- ・(講演)「宗教研究のシナプスの発想―つなぐことで生まれるもの―」嘲風会、於東京大学、2019年12月22日。
- ・(講演)「宗教社会学」於警察大学校、2019年6月6日、8月21日、11月27日。

[その他]

- ・ワークショップ「生活の中で直面する世界の宗教文化―食・服装・忌避などへの理解」(コメンテータ)、國學院大學、2019年6月29日。
- ・企業研修講師、肥後銀行、2019年7月18日。
- ・(寄稿)「リベラルな知識人の集い実感 米芸術科学アカデミー入会式出席」中外日報2019年11月15日。
- ・国際シンポジウム「暴力・過激思想と社会はどう向き合うのか：パキスタン、インドネシア、オウム真理教の事例から考える」(コメンテータ)、笹川平和財団、2020年1月17日。
- ・(書評)四方田犬彦『聖者のレッスン』、読書新聞、2020年1月27日。
- ・(研究抄録)「現代における葬儀の変容に関する認知宗教学的な分析の試み」『宗教研究』93巻別冊、日本宗教学会、2020年3月。
- ・(テレビ出演)「Abema Prime」アベマTV、2020年3月4日。
- ・(書評)レザー・アスラン著『人類はなぜ(神)を生み出したのか?』、週刊読書人、2020年3月27日。

櫻井義秀 客員教授 宗教社会学 アジア宗教文化論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[単行本]

- ・ Fenggang Yang, Francis Jae-ryong Song, and Sakurai Yoshihide eds., *Religiosity, Secularity and Pluralism in the Global East*, MDPI, Basel Switzerland. 2019.6., pp.1-145.

【論文】

- ・ (依頼論文) 「カルト・脱カルト」『臨床心理学—人はみな傷ついている—トラウマケア』第20巻第1号、2020年1月、82-85頁。

【口頭発表】

- ・ 「カルト視される教団への調査と圧力の諸相」テーマセッション「宗教をめぐる調査・研究の倫理—現代的課題にどう向き合うか—」「宗教と社会」学会、於京都府立大学、2019年6月9日。
- ・ Convener and presenter of Thematic Session, “Well-being and Well-dying in medicalized longevity society: How do our religious culture consider the dignity of life and death?” International Society for the Sociology of Religion, Barcelona University, Barcelona, 2019.7.9.
- ・ “From ideological right to survivalist’s right: Two case studies of the religious right since the 1960s in Japan” Thematic Session of Religious Right, International Society for the Sociology of Religion, Barcelona, 2019.7.11.
- ・ East Asian Society for the Scientific Study of Religion (EASSSR) 2nd Annual Meeting at Hokkaido University 主催 Yoshihide Sakurai, “East-West Encounters and Religious Change in Modernizing East Asia” as opening address; Yoshihide Sakurai, “Sociology of Religion in Japan and its current situation”, as the Panelist at the Presidential Panel, Hokkaido University, 2019.7.27-28.
- ・ (招待講演) 「大学のカルト問題—アレフへの対応を中心に」全国大学保健管理研究集会、於札幌コンベンションセンター、2019年10月9日。
- ・ 大谷大学フェアシンプोजウム「人口減少時代の現在と次世代の育成」パネリスト「人口減少時代の生き方—フルスベックの人生を問い直す」於札幌国際ビル、2019年10月20日。
- ・ (講演) 「人は宗教でしあわせになるか」北海道大学大学院文学院人文学カフェ、於紀伊國屋書店、2019年11月9日。
- ・ “Religion and Modernity in East Asia: For understanding historic arche and legitimization in postcolonial times”, 2019 SNU-HU JOINT SYMPOSIUM, 21st Century Sociological Imagination and Thinking: How can we facilitate the reconciliation and dialogue in East Asia?, Seoul National University, 2019.11.23.
- ・ “Religion and Wellbeing: Viewpoints and Perspectives of Recent Research in Japan”, A Symposium on Measuring Religiosity in the Global East, Purdue University, 2019.12.2-3.
- ・ “Engaged Buddhism in Thailand and Japan: “Development Monks” and Disaster Relief”, International Japan Studies, Working Group 2: Religion by Godart, Clinton, Tohoku University, 2019.12.14.

【その他】

- ・ (評論) 「現代日本の宗教最前線71 「自己完結型人生観で真の幸福になれるか」『月刊住職』2019年4月号、136-139頁。
- ・ (評論) 「現代日本の宗教最前線72 「家を失った現代の葬儀はどこへ向かうのか」『月刊住職』2019年5月号、134-137頁。
- ・ (評論) 「現代日本の宗教最前線73 「女性僧侶に女性らしさは必要なのか」『月刊住職』2019年6月号、138-141頁。
- ・ (評論) 「現代日本の宗教最前線74 「家族葬時代になる家族墓のゆくえ」『月刊住職』2019年7月号、150-153頁。
- ・ (評論) 「現代日本の宗教最前線75 「これからの遺体・遺骨はどうすればよいか」『月刊住職』2019年8月号、156-159頁。
- ・ (評論) 「現代日本の宗教最前線76 「樹木葬という墓がなぜうけるか」『月刊住職』2019年10月号、148-

151頁。

- ・(評論)「現代日本の宗教最前線77 「おとなのひきこもりをどうしたらよいか」『月刊住職』2019年11月号、140-143頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線78 「安楽死尊厳死の自己決定権問題」『月刊住職』2019年12月号、142-145頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線79 「全世代に心のケアが必要になった」『月刊住職』2020年1月号、136-139頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線80 「何を学ぶべきか 老後レスを生きる覚悟と知恵」『月刊住職』2020年2月号、136-139頁。
- ・(評論)「現代日本の宗教最前線81 「誰にもサポートが必要な時代になった」『月刊住職』2020年3月号、142-145頁。

土屋博 客員教授 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

ナカイ・ケイト (NAKAI, Kate W) 客員教授 日本思想史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

ノルマン・ヘイヴンズ (HAVENS, Norman) 客員教授 日本宗教史、日本の民間信仰

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

山中弘 客員教授 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

林淳 客員教授 日本宗教史

担当研究事業「[「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の展開と国学史像の再構築]

天田 顕徳 共同研究員 宗教社会学・民俗学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[単行本]

- ・『現代修験道の宗教社会学—山岳信仰の聖地「吉野・熊野」の観光化と文化資源化』岩田書院、2019年9月。

[論文]

- ・「Notes on the Revolution of the Image of Shugendō —Centering on the 1970s and 1990s—」『中央学術研究所紀要』48号、2019年11月、141-152頁。

[口頭発表]

- ・「モノが立ち上げる宗教伝統—現代の山伏を事例に一」（パネル「人とモノの現代宗教—意味づけから消費へ—」）日本宗教学会第78回学術大会、於帝京科学大学、2019年9月14日。
- ・「文化資源としての山岳霊場—霊山の観光化・現状と課題」相模国霊場研究会、於ユニコムプラザさがみはら、2019年11月19日。
- ・「観光資源としての「講」—現代の視覚資料を通じて講研究を考える」講研究会、於駒澤大学、11月23日。

[その他]

- ・(書評)「白川琢磨『顕密のハビトゥス』」『宗教研究』第93巻、第2輯、2019年9月、264-270頁。
- ・(コメンテータ)「メディアと東アジア」研究会、於北海道大学メディア・コミュニケーション研究院、

2019年12月13日。

今井信治 共同研究員 宗教社会学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【その他】

- ・(書評とリプライ) 小池靖「今井信治著『オタク文化と宗教の臨界—情報・消費・場所をめぐる宗教社会学的研究』」『宗教と社会』第25号、2019年6月、151-155頁。

ガイタニディス・ヤニス (GAITANIDIS, Ioannis)

共同研究員 日本学・宗教社会学・医療人類学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

【論文】

- ・「「背景化」するレイキー—現代のスピリチュアル・セラピーにおける位置づけ」栗田英彦・塚田穂高・吉永進一編『近現代日本の民間精神療法: 不可視なエネルギーの諸相』国書刊行会、2019年9月、269-291頁。
- ・“More than just a photo? Aura photography in digital Japan”, *Asian Ethnology* 78 (1), 2019.7., pp.101-125, Special Issue edited by Erica Baffelli and Jane Caple.
- ・“Jobbing as methodology: Victor T. King’s involvement with Area Studies and some implications for Japanese Studies and beyond”, in OOI Keat Gin (ed.) *Borneo and Sulawesi: Indigenous Peoples, Empires and Area Studies*, Routledge, 2019.12., pp.176-193.
- ・“Spiritual Apostasy’ in Contemporary Japan: Religion, Taboos and The Ethics of Capitalism”, *Silva Iaponicarum* 60/61, 2020.3., pp.41-65.
- ・ガイタニディス・ヤニス・小林聡子・吉野文編著『クリティカル日本学—協働学習を通して「日本」のステレオタイプを学びほぐす—』明石書店、2020年3月(はじめに、序章、第2章、第7章、第11章執筆)。

【口頭発表】

- ・“Datsu-supi: Heretical Discourse and Spirituality in Contemporary Japan,” in Panel: Transforming Taboos: Challenging Hegemonic Prohibitions in Japan’s Past and Present (organiser: Juljan Biontino), Asian Studies Japan Conference, Saitama University, 2019.6.29.
- ・“Criticizing spiritual presumption from within: the case of the anti-spirituality discourse in contemporary Japan,” Thematic Session: The marketization of religion: transnational and global developments. International Society for the Sociology of Religion Bi-Annual Conference, University of Barcelona, 2019.7.11.
- ・「異端論としての脱スピ論—内からのスピリチュアル批判—」日本宗教学会第78回、於帝京科学大学、2019年9月14日。

イヴ・カドー (CADOT, Yves) 共同研究員 日本文化と武道

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

塚田穂高 共同研究員 宗教社会学、日本文化論

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

野口生也 共同研究員 宗教人類学、ペンテコスタリズム研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[口頭発表]

- ・「ペンテコスタリズムと伝統宗教」日本宗教学会第78回学術大会、於帝京科学大学、2019年9月14日。

ジャン＝ミシェル・ビュテル (BUTEL, Jean-Michel) 共同研究員 日本民俗学
担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

チャールズ・フレール (FREIRE, Carl)

共同研究員 近代の日本史 (特に社会史・思想史)

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

牧野元紀 共同研究員 ベトナム キリスト教史

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・Native Priests in Christian Societies in the Northern Regions of Precolonial Vietnam: The Appearance of Glocal Elites?, HIROSUE Masashi (ed.), *A History of the Social Integration of Visitors, Migrants, and Colonizers in Southeast Asia*, The Toyo Bunko, 2020.3., pp.35-73.

[口頭発表]

- ・「近世ベトナムにおけるキリシタンの受容と弾圧」シンポジウム「近世東アジアにおけるキリシタンの受容と弾圧」、於早稲田大学、2019年6月22日。

村上晶 共同研究員 宗教社会学、民間信仰研究

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[論文]

- ・「白百合女子大学における情報教育の30年 (1988-2018) —創造的学習としての情報教育—」(松前祐司、大久保成、高田夕希、長屋和哉、三日市紀子、阿久戸義愛、房賢嬉、村木桂子、倉住修、山内宏太郎と共著)『白百合女子大学研究紀要』55号、2019年12月、59-88頁。
- ・「生活仏教論再考—Lived Religion研究との比較から—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第12号、2020年3月、65-90頁。

[口頭発表]

- ・「モノが生み出すつながりとその変容—津軽地方を例として—」日本宗教学会第78回学術大会(パネル「人とモノの現代宗教—意味づけから消費へ—」)、於帝京科学大学、2019年9月14日。

[その他]

- ・「記憶としての死者」『ユリイカ』2020年3月号、青土社、2020年2月、181-184頁。

矢崎早枝子 共同研究員 宗教学

担当研究事業「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」

[口頭発表]

- ・“Religion and politics in modern Japan: continuity and change in the clothing of Shinto deities”, Centre for the Study of Religion and Politics, University of St. Andrews, 2019.4.4.
- ・“Understanding Sufism: Dances of Universal Peace UK and its Syncretic Approach” (パネル“What is Sufism? – An exploration of Sufi studies and Sufism in the West”), British Association for Islamic Studies Annual Conference, University of Nottingham, 2019.4.16.
- ・“Religion and politics in modern Japan: clothing of Kami (Shinto deities) in manga comics”, Fantasy and the Fantastic Symposium, University of Glasgow, 2019.5.10.

- ・ “The Zionist as an ‘Oriental Jew’: A.S. Yahuda (d. 1951) and his work on Jewish-Muslim relations”, Department of Politics, Philosophy and Religion, Lancaster University, 2019.5.29.
- ・ “We are what we wear: clothing of Shinto deities in manga comics as an ongoing process of Kami definition”, European Association for the Study of Religions Conference, University of Tartu, 2019.6.26.
- ・ “‘A cup of humanity’: the Japanese tea ceremony (the Way of Tea) as portrayed by Tenshin Okakura and its reception and practice in contemporary Britain”, International Convention of Asia Scholars 11, University of Leiden, 2019.7.17.
- ・ “Translations of the Qur’an outside of a monotheistic context: the case of Japan”, Alexander Ross and the first English translation of the Qur’an (1649) : Book history, censorship and religion, University of Glasgow, 2019.9.12.
- ・ “More than a gaijin (‘outside person’) : Nicolas Bouvier and his Chronique japonaise”, Reinventing Modernity: Franco-Scottish Encounters with Japan, Alliance française de Glasgow, 2019.9.17.
- ・ (講演) “Shinto and nature”, Interfaith Glasgow “Faith to Faith: Faith and Nature”シリーズ, St Mungo Museum of Religious Life and Art, 2019.9.22.
- ・ (講演) “Engineering the future: Glasgow and Japan in the 19th century”, Henry Dyer Memorial Event, University of Glasgow, 2019.9.23.
- ・ (講演) “Kimono culture, beyond ornamental beauty”, Kimono Exhibition and Study Session, House for An Art Lover, 2019.10.9.
- ・ “Al-Andalus as the foundation of the Zionist vision: A.S. Yahuda and his work on Jewish-Muslim relations”, Religion and Society Seminar, Durham University, 2019.11.12.

[その他]

- ・ (イベント共催) Thistle and Sakura: Glasgow-Japan Networking Event, University of Glasgow, 2019.4.24.
- ・ (テレビ監修) Sacred Wonders of the World, エピソード “Nachi Falls, Japan”, BBC ONE, 2019.8.30.
- ・ (シンポジウム共催) Alexander Ross and the first English translation of the Qur’an (1649) : Book history, censorship and religion, University of Glasgow, 2019.9.12.
- ・ (イベント共催) Passion in Stillness: Traditional Nohgaku Performance & Workshop “Discover Samurai culture in pre-Shakespeare era”, University of Glasgow, 2019.11.9.

井関大介 共同研究員 日本宗教史、宗教思想史

担当研究事業 「「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の展開と国学史像の再構築」

[研究紹介]

近世日本における三教論、とくに儒教の経世論や礼楽論の影響下にある神道論について研究している。具体的には、熊沢蕃山や荻生徂徠、増穂残口といった論者達について、彼らが儒教・仏教・神道その他をどのような理論的前提のもとで論じ、何をあるべき姿として実現しようとしていたか、彼らの言説が後の国学者達における「道」の議論へとどう引き継がれ、あるいは変容していくのかを明らかにすることを目指している。また、そういった近世的な宗教理論が、西欧の「宗教」概念を受け入れていく近代においてどのように展開していくのかという問題意識から、近年は井上円了の宗教論や妖怪学についての研究も進めてきた。

[論文]

- ・ 「秋成の「神秘思想」における二つの神語り」『文学』岩波書店、第10巻第1号、2009年1月、169-180頁。
- ・ 「熊沢蕃山の「大道」と「神道」』『宗教研究』日本宗教学会、第92巻第1輯第391号、2018年6月、1-26頁。
- ・ 「円了妖怪学の基本構造について」井上円了研究センター編『論集 井上円了』教育評論社、2019年4月、184-213頁。

[口頭発表]

- ・「国学者における礼楽論」第78回日本宗教学会大会、於帝京科学大学、2019年9月。

[その他]

- ・三浦節夫監修、井関大介・出野尚紀・北田建二・竹中久留美編『CATALOG 井上円了一モノから見る思想・活動・人脈—』東洋大学井上円了研究センター、2019年12月、16-26頁。

一戸渉 共同研究員 日本近世文学・学芸史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[論文]

- ・「復古というモード—和学から国学へ—」『近世文学史研究三 十九世紀の文学』ぺりかん社、2019年11月、48-64頁。
- ・「稲荷社祀官大西親盛の和歌 続：京都学・歴史館蔵『〔歌日記〕』翻印と解題（一）」『斯道文庫論集』第54輯、2020年2月、19-55頁。

[口頭発表]

- ・「寛政九年十一月二十七日付蒔田必器宛橋本経亮書状について」第34回鈴屋学会大会、於本居宣長記念館、2019年4月21日。
- ・（講演）「吉田家三代と学芸活動」国立歴史民俗博物館 共同研究「『聆濤閣集古帖』の総合資料学研究」報告会「住吉の豪商・吉田家のお宝—まぼろしの聆濤閣コレクション—」、於白鶴酒造株式会社本社、2019年12月1日。

[その他]

- ・（項目執筆）「笑いで処世訓を学ぶ—落語の源流『醒睡笑』（笑話集）」『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』文学通信、2019年5月、57-62頁。
- ・（コラム）「みやびといましめ一定信の文雅を読み解くために」『なごみ』第474号、淡交社、2019年6月、38-39頁。

今井功一 共同研究員 歴史民俗資料学、富士信仰、教派神道

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[研究紹介]

富士講系教派神道のひとつである実行教と、地域に残された富士講関係資料の2つを主な対象として、近代における角行系富士信仰の展開を考察している。前者については、教団による書籍・雑誌の出版活動を中心に、近代宗教界における実行教と、教団を支えた人々の果たした役割について検討することで、富士信仰史・教派神道史上に改めて位置付けることを目指している。後者については埼玉県南部で活動していた富士講とその明治期の指導者による著作の分析から、地域社会における富士信仰の教義及び情報の流通や伝達について検討している。

[論文]

- ・「柴田花守と実行社・実行教の書物出版」佐賀大学地域学歴史文化研究センター『花守と介次郎—明治を担った小城の人びと—』佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2016年10月、43-49頁。
- ・「富士信仰と東照宮をめぐる研究ノート—戸田市新曾南の新曾浅間社に祀られた東照宮から—」『埼玉民俗』第42号、2017年3月、80-87頁。
- ・「本橋源兵衛『不二道一字開の説』の影印と翻刻及び解題」『研究紀要』（戸田市立郷土博物館）第27号、2017年3月、1-14頁。
- ・「富士講系教派神道・実行教の雑誌刊行—実行教本館内唯一社『惟一』目次」『書物出版と社会変容』第21号、2018年10月、67-99頁。

[口頭発表]

- ・「実行教の組織化における非富士信仰的要因」（パネル「越境する教派神道—組織化における交渉・葛藤・分裂—」）日本宗教学会第78回学術大会、於帝京科学大学、2019年9月15日。
- ・「明治期実行教の教師養成制度形成における国学者・漢学者」神道宗教学会第73回学術大会、於國學院大學、2019年12月8日。

荻原 稔 共同研究員 教派神道

担当研究事業 「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【研究紹介】

井上正鐵と禊教を中心にして、近世の庶民教化の活動や、明治期以降の教派神道の展開を研究している。法政大学文学部を卒業後、特別支援学校の教員を33年間してきた。かつて、神道学科で「教派神道概説」の兼任講師を6年間ほどしたが、今度は日文研の共同研究員にさせていただいて嬉しい。今年は調査に出歩けないので、文献中心にして井上正鐵と気吹舎・平田家の関りを調べたりしている。井上門中で平田門人になったという人もおり、信州伊那では同じ村に平田門人と井上門中がいるところがある。日文研では、平田門人で井上門中にも関わった大武知康関係の文書の研究も始まりつつあるので、何が見えてくるだろうかと楽しみにしている。

【単行本】

- ・『井上正鐵門中・禊教の成立と展開』思想の科学社、2018年7月。

【論文】

- ・「『特別支援教育の生涯学習化』の現場から—一つの子の会ひまわり広場の事例—」『SGU 教師教育研究』（札幌学院大学）34号、2020年2月、66-71頁。

【口頭発表】

- ・「大成教に包括された近世教化活動」第78回日本宗教学会学術大会、於帝京科学大学、2019年9月15日。
- ・「平成30年度・令和元年度旧ソ連抑留中死亡者遺骨収集派遣（ハバロフスク地方第1次）報告」シベリア抑留体験の労苦を語り継ぐ集い、於全国強制抑留者協会、2019年10月6日。
- ・「井上正鐵門中・禊教と国学」令和元年度第1回国学研究プラットフォーム公開レクチャー、於國學院大學、2019年11月14日。
- ・「井上正鐵の杉山秀三宛書簡」第73回神道宗教学会学術大会、於國學院大學、2019年12月8日。
- ・「教員・家族・住民としてワクワクしながら生きる—ある養護学校教員の来た道と願い—」令和元年度札幌学院大学教師教育研究協議会講演会、於札幌学院大学、2020年1月11日。

【その他】

- ・（コラム）「青峰学園における学校に地域の人びとを招くカフェの取組」『これからの特別支援教育の進路指導—共生社会に向けたネットワークづくり』ジヤース教育新社、2019年12月、106-107頁。

小平 美香 共同研究員 日本思想史

担当研究事業 「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【口頭発表】

- ・「『穂積歌子日記』にみる「慈善」」近現代日本における「皇室と福祉」研究会、於皇學館大学、2019年9月4日。

小田 真裕 共同研究員 日本近世史

担当研究事業 「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

【その他】

- ・見学記「流山市立博物館開館40周年企画展 小金牧—絵図・古文書・発掘調査から見た牧と村—」『千葉史学』第74号、2019年5月、51-53頁。

- ・展示評「(展示評) 記憶をつなぐ—津波災害と文化遺産—」歴史学研究会編『歴史を未来につなぐ—「3・11からの歴史学」の射程—』、東京大学出版会、2019年5月、133-140頁。
- ・歴史随想「台風の後にICOM京都大会を振り返る」『千葉史学』第75号、2019年11月、6-8頁。

芹口真結子 共同研究員 日本近世史

担当研究事業「[國學院大學 国学研究プラットフォーム]の展開と国学史像の再構築」

[単行本]

- ・『近世仏教の教説と教化』法蔵館、2019年6月。

[論文]

- ・「宗派間対立における政治交渉—宗名論争を事例に」『人民の歴史学』222号、2019年12月、1-13頁。

[口頭発表]

- ・「宗派間対立における政治交渉—宗名論争を事例に」東京歴史科学研究会第53回大会、於早稲田大学、2019年4月20日。
- ・「安永期宗名論争における仏教教団と藩権力の政治交渉—姫路藩領を事例に一」第58回日本女子大学史学研究会大会、2019年11月30日。
- ・(講演)「宗名論争の再検討—対幕府交渉ルートに着目して—」2019年度真宗大谷派東京教区東京一組住職・寺族研修会、於円照寺、2020年2月12日。

[その他]

- ・(書評)西田かほる著『近世甲斐国社会組織の研究』『日本歴史』862号、2020年3月、90-92頁。

問芝志保 共同研究員 宗教社会学・日本近現代宗教史

担当研究事業「[國學院大學 国学研究プラットフォーム]の展開と国学史像の再構築」

[論文]

- ・「過疎地域における合祀墓の設立と他地域への広がり—新潟県糸魚川市を事例として—」冠婚葬祭総合研究所編刊『論文集—冠婚編・葬祭編—(平成30事業年度)』、2019年5月、104-111頁。
- ・「寺院と墓地の現在—「墓じまい時代」の課題—」相澤秀生・川又俊則編著『岐路に立つ仏教寺院—曹洞宗宗勢総合調査2015年を中心に—』法蔵館、2019年7月、137-164頁。

[口頭発表]

- ・「近代日本における墓地観の変容と墓参り」「現代ムスリム社会における風紀・暴力・統治に関する地域横断的研究」研究会、於東京文化財研究所、2019年6月1日。
- ・「都市の墓地問題の再検討」(パネル「『現代人の信仰構造』の成果と課題」)「宗教と社会」学会第27回学術大会、於京都府立大学、2019年6月13日。
- ・「宗教実践としての墓参りと先祖観の現在—2010年代の開運・自己啓発・スピリチュアル本の分析から—」「宗教とツーリズム」研究会、於北海道大学東京オフィス、2019年8月7日。
- ・「調査をとおして見えてくる寺院と葬祭・墓地問題のこれから」(パネル「宗勢調査の可能性と個別課題へのアプローチ」)日本宗教学会第78回学術大会、於帝京科学大学、2019年9月15日。
- ・「宗勢調査からみる寺院と墓地の現在」(パネル「岐路に立つ仏教寺院」第3報告)曹洞宗総合研究センター第21回学術大会、於曹洞宗檀信徒会館、2019年11月26日。
- ・“Transformation of the Burial System after the Great Kanto Earthquake”, in Workshop: The Practices and Ethics of Dealing with Disaster Remains and Cultural Heritage, Tohoku Univ., in Sendai, 2020.2.20.

[その他]

- ・「寺院に建てる家墓の正しい歴史から見る未来(1) 江戸東京の寺院に庶民はどのような墓を建てたか」『月刊住職』2019年10月、112-119頁。

- ・「寺院に建てる家墓の正しい歴史から見る未来（2） 明治以後の墓所がカロート式になった経緯に学ぶ」『月刊住職』2019年11月、108-114頁。

原田雄斗 共同研究員 日本近代史、日本宗教史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[研究紹介]

近代日本において神道がいかに解釈されたのかを、日本近代史の文脈に即して明らかにすることを目指している。具体的には、日露戦争前後に神職に就任した河野省三の神道解釈を分析することで、世紀転換期では、神道解釈の根拠が時代状況から個人の境遇に変化していったことを示した。

近年では、河野が所属していた埼玉県神職会の動きを追いつつ、大正天皇の即位を契機とする神社界の反応を事例に、社会の「応答」としての神道の様相に迫っている。また、台北帝国大学で法学を担当した増田福太郎による台湾宗教研究の特徴を析出しようとしている。

以上の点を明らかにすることで、人々は自らの生きる社会や自らの境遇をどのように認識し、どのように意味づけようとしたのかという問いに接続することを試みている。

[論文]

- ・「世紀転換期における在地神職の神道解釈と宗教観—河野省三を事例に—」『次世代人文社会研究』第12号、2016年3月、109-132頁。
- ・「研究動向 国家神道研究」寺田喜朗・塚田穂高・川又俊則・小島伸之編著『近現代日本の宗教変動—実証的宗教社会学の視座から—』ハーベスト社、2016年6月、382-397頁。
- ・「天皇の代替わりと神社界—大正期における『全国神職会会報』の論説を中心に—」『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』第11号、2018年9月、88-105頁。

[口頭発表]

- ・「大正天皇即位礼と埼玉県の神社界」第5回国家神道・国体論研究会、於國學院大學、2016年9月24日。

古畑侑亮 共同研究員 日本近世史・思想史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[論文]

- ・「刊行物にみる金沢甚衛の横顔—社会事業の実践と歴史研究を中心に—」『大倉山論集』第66輯、2020年3月、213-268頁。

[口頭発表]

- ・（講演）「好事家の旅と小田原北条氏研究—福住正兄と小室元長の交友から—」第558回報徳ゼミナール、於報徳博物館、2019年6月9日。
- ・「幕末維新时期における「好古家」の情報蒐集と歴史意識—武蔵国の在村医小室元長の『窺天録』を中心に—」近世史フォーラム7月例会、於聖心女子大学、2019年7月20日。
- ・「明治10年代における考古学的知識の受容と歴史意識—埼玉の「好古家」の書簡集の分析から—」近現代史研究会11月例会、於名古屋大学、2019年11月30日。

[その他]

- ・（書評）「工藤航平『近世蔵書文化論 地域〈知〉の形成と社会』から考える」『書物・出版と社会変容』23号、2019年9月、133-147頁。

三ツ松誠 共同研究員 日本思想史

担当研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

[単行本]

- ・『京の雅と小城藩』（村上義明と共編）佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2019年10月。

[論文]

- ・「帰って来た王室家—明治初年の攘夷派の位置をめぐって—」『明治維新史研究』17号、2019年11月、70-76頁。
- ・「『当世百歌仙』の刊行とその周辺」『近世文藝』111号、2020年1月、49-66頁。

[口頭発表]

- ・(講演)「歌人としての古川松根」第175回歴史館ゼミナール、於佐賀県立佐賀城本丸歴史館、2019年4月13日。
- ・「西川須賀雄の初期思想」日本山岳修験学会山寺立石寺学術大会、於山形大学小白川キャンパス、2019年9月1日。
- ・(講演)「明治新政府と丸山作楽」島原市第214回市民文化講座、於森岳公民館、2019年9月16日。
- ・(講演)「小城から考える近世の朝廷・幕府・藩」佐賀大学・小城市交流事業特別展「京の雅と小城藩」記念講演会、於小城市歴史資料館、2019年10月26日。
- ・「平田国学における幽界交渉実在論の系譜」東アジア恠異学会第125回定例研究会、於関西学院大学梅田キャンパス、2019年11月17日。

[その他]

- ・(資料紹介)「小城鍋島文庫蔵『和学知辺草』翻刻稿(上)」(中尾友香梨、白石良夫、日高愛子、大久保順子、沼尻利通、中尾健一郎、村上義明、二宮愛理、進藤康子、亀井森、土屋育子、田中圭子、中山成一、脇山真衣と共著)『佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要』14号、2019年9月30日、95-115頁。